予告 Future Event

秋の企画展 2

折元立身展 1991→2005

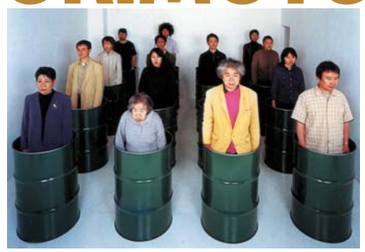
2005年11月1日[火]－15日[火]
12:00→18:00(最終日は17:00まで)
休館日　6日,13日　入場無料
会場:名古屋芸術大学アート＆デザインセンター

●オープニングパフォーマンス
11月1日[火]16:00－17:00 B棟カフェテリア

世界各地で行われるパフォーマンスで知られる折元立身。近年では実母との生活を「アート・ママ」シリーズとしてパフォーマンスやコラボレート写真を発表。高齢化社会や家族との生活をテーマとした作品で注目されています。
本展では1991年から現在までの新作も含めた写真作品、ビデオ、オブジェに加え、これまであまり発表されてこなかったドローイング作品もご紹介します。
また会期初日にはパフォーマンスも行います。

TATSUMI ORIMOTO

折元立身(おりもと たつみ)
1946年生まれ。世界中で行われるパフォーマンスやこれらを記録した写真、オブジェ等で知られる。主な展覧会：シドニービエンナーレ(1988)、サンパウロビエンナーレ(1991,2002)、ヴェネチアビエンナーレ(2001)、横浜トリエンナーレ(2001)など様々な国際展に参加。



アート&デザインセンター
9 EXHIBITION → 12 SCHEDULE
展覧会スケジュール

Open 12:00—18:00
(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
但し、10/10,11/3は開館します
[入場無料]どなたでもご覧いただけます。

9/20[火]→ 9/28[水]	モール － 4思いがけない産物店 －
9/30[金]→10/ 5[水]	書道芸術演習・作品展
10/ 8[土]→10/19[水]	秋の企画展 1　－浸透する領域－ Height. Width. Depth MEDIASELECT 2005
10/21[金]→10/26[水]	幼稚園児たちのゲイジツ展
11/ 1[火]→11/15[火]	秋の企画展 2 折元 立身展 1991 – 2005
11/18[金]→11/28[月]	西方からの提言#4 アルベルト・ゴンザロ ＋ 松岡 徹
11/30[水]→12/ 7[水]	境界から見えるもの（仮）
12/ 9[金]→12/14[水]	工芸選択コース作品展
12/16[金]→12/21[水]	名古屋芸術大学後期留学生作品展
12/22[木]→ 1/ 6[金]	冬期休館

Art & Design Center
名古屋芸術大学アート&デザインセンター　〒481-8535 愛知県西春日井郡西春町　tel.0568-24-0325　fax.0568-24-0326

編集後記

本紙でも何度か紹介しているブレーメン・ナゴヤアートプロジェクト2005がいよいよ始まります。すでにドイツ側から17名の作家が来日しており、先日メイン会場となる元味噌蔵でのウェルカムパーティが開かれました。彼らは来日直後から展示会場となる街を歩き、そこに住む人々・街の歴史を探りながら準備していた作品プランを「場」との関わりの中で完成させていきます。迎えた日本側は16名の出品作家に加え、多くのサポートスタッフが参加しました。1年半にわたる準備のプロセスを振り返ると、このプロジェクトが町の方々の温かい協力なしには成し得なかったことは明らかです。これも実行委員会メンバーによる地道なフィールドワークが実を結んだ結果と言えるのかもしれません。

Ble　Vol.10
発行日　2005年9月17日
編　集　江坂恵里子（アート＆デザインセンター）
発　行　名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県西春日井郡西春町徳重西沼65
Tel. 0568-24-0325　Fax. 0568-24-0326
E-mail　adc@nua.ac.jp
URL　http://www.nua.ac.jp
デザイン　岩田知人（サンメッセ株式会社）
印　刷　サンメッセ株式会社
2005　Printed in Japan

© Art & Design Center, Nagoya University of Arts

最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)
徳重・名古屋芸大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行・準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります

自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学

B!e

2005 Vol.10
ART & DESIGN CENTER NEWS

特集 Fieldwork

『フィールド・ワーク』

「フィールド・ワーク」を定義づけることはなかなか難しい。なぜなら学問的、職業的、あるいは趣味的なアプローチ等において広く用いられる言葉であるからだ。またアートやデザインの領域に限ったとしても、「フィールド・ワーク」を創造行為における有効な手段と考える人は多く、その人の数だけ方法論は存在するであろう。しかしいずれの場合でも、外部空間としての「フィールド」におもむくことからスタートする点において大差はないはずである。ここでは表現におけるひとつのプロセスとしての「フィールド・ワーク」について、報告を行いたい。

秋に本学アート＆デザインセンター企画による展覧会が開催される。メディアアートとデザインの領域に関わる作家と作品を紹介するもので、本学の企画展としてこのジャンルでの開催は初めてとなる。タイトルは「Height. Width. Depth MEDIASELECT2005（浸透する領域）」である。「Height. Width. Depth（高さ、幅、奥行き）」とは私たちの生活空間そのものを意味する。その中に存在しながらも、人間の物理的移動、精神状態あるいは社会制度などによってめまぐるしく変位する情報。それらに到達するための引き出し（インターフェース）を各作家は様々な形態と表現手法により提示する内容である。現在進行形で立ち現れるメディア表現を学生たちに体感してもらえるよう、招待作家の一人、中居伊織氏には展覧会に先駆け7月にレクチャー、そして8月には新作制作のためのワークショップを行っていただいた。

今回の展覧会では、中居氏に4つの作品を展示いただく予定である。いずれも「streetscape」という街の音風景をインタラクティブな形で体感できる作品である。4つのうち１つは新作をお願いし、本学の最寄り駅である名鉄犬山線、徳重・名古屋芸大駅を中心とする400メートル四方の空間で、学生向けのワークショップという形で実際に音素材を取材することとなった。バイノーラルマイクという左右の耳に装着し、まるで「録る」というよりは「聞く」ような収録機器を用いての素材集めである。これにより人間が実際に「聞く」のとほぼ同じ状態で音が収録されるのである。ワークショップにはデザイン学部1～4年生まで32名が参加した。約10名ずつ3つのグループにわかれ、事前に中居氏が指定したポイントを地図上から拾い上げ、そこでの音を収録する。収録時間は各箇所1分15秒とルール化された。録音ボタンを押し、息をひそめると様々な音が意識下に飛び込んでくる。車、セミ、飛行機、自転車、工事現場の溶接などなど。世界の大きな時間軸という流れからあえて1分15秒を切り取り、それを収録していくと、ひとつひとつの音が偶然性のもとに次から次へと、まるでプログラムされていたかのように立ち現れるのを感じた。

中居氏はワークショップ終了後、学生に向けて「音の採集というフィールド・ワークをすることで、あらゆる事象が『奇跡の連続』として存在しているのだと感じられるようになった」と述べられた。

デザイン学部の1年生に対して行っている実技の一課題に「フィールド・ワーク」を行い、そこで得られた情報を編集しファイル化するものがある。「絵を描く事が好き」ということを美術・デザイン系大学に入学する動機付けとする学生が多い中、この課題はもっとも難解にとらえられる傾向にある。課題そのものを理解することに多くの時間が必要となるが、作品完成時には今までにない充足感を得られたとコメントする学生が実に多い。表現・造形行為は内から湧き出る創造的力をゼロから構築していくことであると錯覚されがちである。しかしフィールド・ワークのように創造的なモチベーションを外部に依存し、それを自分という編集装置を用いて形に変換することも一方で重要な表現行為であると言える。

フィールド・ワークで学生それぞれが収録した「奇跡の連続」がいかに編集されたかは、10月開催の展覧会でぜひ体感いただきたい。

池側隆之 デザイン学部メディアデザイン・コース講師

秋の企画展 1　－浸透する領域－
Height. Width. Depth MEDIASELECT 2005
10/8[土]→10/19[水]
12:00—18:00　最終日は17:00まで 休館日 9日,16日
会　場：名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
主　催：名古屋芸術大学
共　催：メディアセレクト
企画・運営：名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
Height.Width.Depth MEDIASELECT2005展実行委員会